

大使館便り

第 155 号 平成 28 年 2 月 2 日
在ポルトガル日本国大使館

1. 東博史大使からのメッセージ

2. 政治・経済関係

- (1) 大統領選挙の結果
- (2) 6ヶ月物及び12ヶ月物短期国債の発行
- (3) ミゲル・フラスキーリョ AICEP 長官の訪日

3. 広報・文化関係

【イベント】

- (1) 第15回広島国際アニメーションフェスティバルの開催
- (2) ルイーザ・アルパリャオン写真展 一鏡の陰謀一
- (3) 下出蒔絵司所三代目・下出祐太郎による講演会
- (4) 山岸幸道とミゲル・ロッシヤによるピアノとチェロのリサイタル

【報告】

- (5) 雅楽ワークショップ

【お知らせ】

- (6) 2016年度日本政府国費留学生（日本語・日本文化研修留学生）の募集
- (7) 広報文化班からのお知らせ

4. 領事関係

- (1) 在留届に関するお願い
- (2) 当館領事業務へのご意見募集

1. 東博史大使からのメッセージ

立春の候、当地では、比較的暖かい日が続いており、皆様におかれましては、健やかに過ごしのことと存じます。

今月は、「1月24日のポルトガル大統領選挙」、「サンタマリア・ダ・フェーラ市訪問」、「トーレス・ヴェドラス市サンタクルス訪問」について御紹介したく存じます。

(1) ポルトガル大統領選挙

1月24日、ポルトガルで大統領選挙の第1次投票が実施され、昨年10月の立候補表明以降、各世論調査で終始リードしていたマルセロ・レベロ・デ・ソウザ候補(社会民主党元党首、政治コメンテーター、大学教授)が有効票の過半数を上回る52%の支持を集め、1次投票での当選を果たしました。大統領就任式は3月9日で任期は5年(再選は一度可)、1974年の革命以降、5人目の大統領が誕生します。

同氏は、ブラガンサ財団理事長を務めておられて、私も、これまで数回お会いしていますが、豊富な知見と高い教養をお持ちで、ポルトガル及び国際社会において「日本」が果たすべき役割の重要性に言及されています。また、御本人も抱負として述べておられるとおり、ポルトガルの今後の発展のためには、新大統領の下で、「政治的安定性の確保」が実現されることが期待されています。

(2) サンタマリア・ダ・フェーラ市訪問

1月15日、私はサンタマリア・ダ・フェーラ市(ポルトとアヴェイロの間の市)を訪問しました。今回の訪問は、エミディオ・ソウザ市長の招きにより、八田智大、リカルド・ヴィエイラの2人のピアニストによって2010年に結成されたピアノ4手連弾デュオ「MusicOrba」(ムジコルバ)の演奏会出席のためでした。同演奏会は、同市市庁舎オーディトリアムで開催され、日本の楽曲も含め素晴らしい演奏会でした。2人の演奏者は普段はパリ在住ですが、日本人の八田氏とサンタマリア・ダ・フェーラ市出身のヴィエイラ氏のピアノ4手連弾デュオは、日本とポルトガルの友好の象徴として是非世界で活躍を期待したいと思いました。

同市訪問の機会に、同市長他とともに、アモリン・グループを訪問しました。アモリン・グループは、長年にわたり、日本にコルク及びコルク製品(建材、壁材、床材等)を輸出しています。また、同グループは、石油関連企業のGALPの株主でもあり、ジョアキン・アモリン会長他より、「今後は、コルク関係の貿易・投資に加えて、エネルギー関係等より幅広い分野での協力並びにCPLP諸国(特にアフリカ)での両国企業の協力を進めていきたい」との示唆がありました。

更に、同市長の紹介(同席)で、GRANNORTE社(コルク製品製造会社で既に40年に亘って日本に建材等コルク製品を輸出)、p:b社(PROFESSION:BOTTIER)(靴製造企業で既にKENZOグループに靴を提供している由)、Rufel社(皮革バッグ製造)等の幹部とお会いする機会があり、いずれの社よりも今後日本との関係を更に強化・拡大したいとの意向が示されました。



(3) トーレス・ヴェドラス市サンタクルス訪問

1月27日、私は、トーレス・ヴェドラス市を訪問し、カルロス・ベルナルデス市長を表敬するとともに、同市長と一緒に壇一雄ゆかりの「サンタクルス」を訪問しました。

皆様も御存知かと存じますが、「サンタクルス」は、作家・壇一雄が1970年～71年にかけて1年半あまり住んで愛してやまなかった町と言われています。リスボンの北約30キロメートルのトーレス・ヴェドラス市にあり、夏は海水浴場として賑わいます。

同市長とともに、「Alto da Vela」(高台にあり、広大な大西洋に面する壇一雄が愛した美しい夕陽の名所)、「壇一雄が住んでいた家」、「壇一雄の名前が通り名になっている通り」、海岸近くに建てられた「文学碑」、「同氏が愛犬とともに散策した海岸」、「同氏が足しげく通った居酒屋」、「サンタクルス水車小屋」(観光案内所)等を視察しました。

特に、「壇一雄が住んでいた家」では、壇一雄と親交のあった同家のオーナーが当時の模様を話して下さいました。また、「居酒屋」には、壇一雄を知る数人の方がわざわざ来て下さり、壇一雄と一緒に写っている写真、壇一雄から譲り受けた「書籍」、雑誌、日本語の年賀状等手紙、日本手ぬぐい、折り紙等壇一雄ゆかりの品を見せて頂きました。既に40年以上の歳月がたっているにもかかわらず当時のことを昨日のこつのように話す御婆さんの姿を見て、壇一雄が地元の住民に如何に溶け込んで、親しまれていたか、また、「日本」について如何に良い印象を残したかについて、強い感銘を受けました。

また、同市の取り組みとしても、「壇一雄が住んでいた家」の前の通りを「壇一雄通り」と命名するとともに、1992年には、壇一雄の御家族、関係者とともに「文学碑」を建立。今も、「サンタクルス水車小屋」(観光案内所)では、壇一雄の写真をビデオで流す等壇一雄を「顕彰」し続けています。



今回、全日程に同行頂いたカルロス・ベルナルデス市長からは、『檀一雄は、「サンタクルス」を彼自身と「空」、「海」そして「大地」と一体になれる場所として愛し、彼の作品形成にインスピレーションを与えたと信じている。この檀一雄とサンタクルスの関係を「起点」として、ポルトガルと日本の関係を強化していきたい。そのためにも、今後、檀一雄のサンタクルスでの滞在を中心として、檀一雄の人生、作品を顕彰し、サンタクルスの町を文学、絵画、彫刻、音楽、演劇、パーフォーミングアート等の「芸術」、更には食文化等にインスピレーションを与える街として知らせていきたい。また、日本からの観光客の増加を図りたい。このため檀一雄ゆかりの「山梨県」、ポルトガルと関係の深い「九州」とトーレス・ヴェドラス市の間で学校間の交流や旅行業関係者、報道関係者、有識者に来て頂いて、サンタクルス海岸のプロモーション、檀一雄の人生ゆかりの地を巡る「檀一雄文化街道」の如きものを検討したく是非とも日本大使館の助力を得たい』とのお話がありました。私も、40年以上も前に、実質6か月程滞在しただけの日本人文学者を今もこれ程慕い、日本との関係強化を図りたいとすることを高く評価し、今後如何なることができるか真剣に検討いたしたく存じます。また、3月初旬に予定されている「リスボン旅行博」の際に、日本からの旅行関係者との交流の機会を持つようにしたく存じます。皆様におかれましても何か良いアイデア等がございましたらお知らせいただければ幸甚に存じます。

1月中の行事として、23日には、「日本人会新年会」、同26日には、「日本・ポルトガル商工会議所主催新年会」、同30日には、「ポルトガル・日本友好協会新年会」が開催され、私も出席し、挨拶しました。

更に、1月30日、ポルトガル語の普及を目的とした国際会議「 I Conferencia

Internacional Rotas e Paisagens da Língua Portuguesa」がヴィラ・フランカ・ド・シーラで開催され、第一回目のテーマに「日本の CPLP オブザーバー参加」が選ばれ、私も出席し、挨拶しました。

また、1月号でお知らせしたとおり、1月27日～30日、ミゲル・フラスキーリョ・ポルトガル投資貿易振興庁(AICEP)長官が訪日しました。これらについては、次号以降で詳細を御紹介致したく存じます。

2月に入り、季節の変わり目となりますが、皆様におかれましては、御自愛の上御活躍されますようお願い申し上げます。

2. 政治・経済関係

(1) 大統領選挙の結果

1月24日、カヴァコ・シルヴァ大統領の2期10年の任期満了に伴い、当国で大統領選挙第1次投票が実施され、昨年10月の立候補表明以降、各世論調査で終始リードしていたマルセロ・レベロ・デ・ソウザ候補(元社会民主党党首、政治コメンテーター、大学教授)が有効票の過半数を上回る52%の支持を集め、1次投票での当選を果たしました。ソウザ次期大統領は、緊縮政策を推進した社会民主党及び民衆党の推薦を受けたものの、選挙期間中、自らを「右派の中の左派」と公言し、政治的安定性の実現を最優先すると表明していました。

同次期大統領は24日夜に行った勝利演説で、「全ポルトガル国民に奉仕できるような大統領を目指す。深刻な経済的・社会的危機を脱した後に分断されたものを再び団結すべく、全ての手段を講じていきたい」等抱負を述べました。

大統領就任式は3月9日に予定されており、任期は5年で、1974年の革命以降、5人目の大統領となります。

(2) 6ヶ月物及び12ヶ月物短期国債の発行

1月20日、ポルトガル国庫公債管理庁(IGCP)は、6ヶ月物及び12ヶ月物短期国債の入札を実施し、総額18億ユーロを調達しました。落札平均利回りは、6ヶ月物が▲0.013%、12ヶ月物が▲0.001%でした。マヌエル・カルデイラ・カブラル経済大臣は、今回の入札結果について、「新銀行(Novo Banco)」の処理に関して投資家が不安視しているが、今回の入札でポルトガルの国債が非投資対象ではないことが証明されたと述べました。

(3) ミゲル・フラスキーリョ AICEP 長官の訪日

1月27日～30日、ミゲル・フラスキーリョ・ポルトガル投資貿易振興庁(AICEP)長官が訪日しました。これで4回目の訪日となる右長官は、昨年3月にAICEPと協力強化の覚書を締結した独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO)を訪問したほか、日本企業関係者と数多くの意見交換を行いました。

3. 広報・文化関係

(イベント)

(1) 第15回広島国際アニメーションフェスティバルの開催

標記のアニメフェスティバルが以下の通り開催され、コンペティション参加作品を募集しています。応募要領等詳細は、下記 URL をご参照下さい。

- ・フェスティバル日時： 2016年8月18日(木)～25日(月)
- ・作品応募期間：2016年2月1日(月)～4月1日(金)
- ・会場・住所：〒730-0812 広島市中区加古町4-17 JMS アステールプラザ 内
- ・お問い合わせ：第16回広島国際アニメーションフェスティバル事務局
〒730-0812 広島市中区加古町4-17 JMS アステールプラザ 内
E-mail: hiroanim@hiroanim.org
TEL (082)245-0245、FAX(082)245-0246/(082)504-5658
- ・URL : <http://hiroanim.org/>

(2) ルイーザ・アルパリャオン写真展 —鏡の陰謀—

日本国大使館主催、ドン・ルイス1世財団協力により、建築家ルイーザ・アルパリャオンによる写真展が、下記のとおり開催されています。日本の街中いたるところに見られるカーブミラー等の凸面鏡を通して見た様々な日本の風景を写し出した展示会です。

- ・日時：1月29日(金)～3月27日(日) 10:00～18:00 (月曜休館)
※オープニングセレモニー 2月12日(金) 21:30～
- ・場所：カスカイス市文化センター (Centro Cultural de Cascais)
- ・住所：Avenida Rei Humberto II de Itália, S/N 2750-800 Cascais
- ・お問い合わせ：21 481 56 65 / dapc@cm-cascais.pt (カスカイス市文化センター)
- ・URL : www.fundacaodomluis.pt



(3) 下出蒔絵司所三代目・下出祐太郎による講演会

日本国大使館の主催により、下記のとおり、下出蒔絵司所三代目・下出祐太郎による日本の伝統漆工芸技法・蒔絵についての講演会「挑戦を重ねる現代の蒔絵師（仮）」が開催されます。漆文様の上に金銀粉を蒔く蒔絵は、京都の高台寺にみられる作品が世界的にも有名で、同作品は2011年にロンドンのヴィクトリア&アルバート博物館において展示され、下出専門家の講演と併せて好評を博しました。専門家のみならず一般の来場者にもお楽しみいただける内容の講演です。

- ・日時：3月4日（金） 17：00～
- ・場所：グルベンキアン美術館
- ・住所：Av. Berna 45 A, 1067-001, Lisboa
- ・入場無料
- ・お問い合わせ：cultural@lb.mofa.go.jp / 21 311 0560（日本国大使館広報文化班）

(4) 山岸幸道とミゲル・ロッシヤによるピアノとチェロのリサイタル

日本国大使館の主催により、下記のとおり、当地在住の音楽家・山岸幸道とポルトガル人チェリスト・ミゲル・ロッシヤによるコンサート「山岸幸道とミゲル・ロッシヤによるピアノとチェロのリサイタルーアジアの香りー（仮）」が開催されます。時の概念をテーマとし様々なアジア的感性を取り込んだリサイタルです。

- ・日時：3月19日（土） 16：00～
- ・場所：アジュダ宮殿
- ・住所：Palácio Nacional da Ajuda, Lisboa
- ・入場無料
- ・お問い合わせ：cultural@lb.mofa.go.jp / 21 311 0560（日本国大使館広報文化班）

(報告)

(5) 雅楽ワークショップ

1月21日、リスボン高等音楽院において、雅楽の笙（しょう）演奏家兼現代音楽作曲家・真鍋尚之と、箏（こと）奏者・梶ヶ野亜生による、笙及び箏のワークショップ並びにミニコンサートが行なわれました。ポルトガルでは、日本の皇室に宮廷音楽として継承される雅楽で用いられるこれら楽器の事業は珍しく、実際に楽器を目にできる貴重な機会となりました。

笙演奏家の真鍋氏より、雅楽はアジア諸地域の影響を強く受け千年以上に亘り日本の皇室で演奏されてきたこと、楽譜ではなく口承により代々伝えられてきたことなど説明があり、雅楽特有の旋律を実演し雅楽の発展についてビデオによる紹介を行ないました。また、雅楽を奏でる楽器の一つとしての笙の起源・構造及びその発展について解説を行ない様々な音を実演しました。

箏奏者の梶ヶ野氏より、初期の箏は5弦であり後の奈良時代に弦数が13弦に増え長さが2メートル近くになったこと、箏はもともと中国からもたらされた楽器で後に日本の皇室で演奏されるようになったこと、箏は木製で弦は本来は絹で作られていたこと（現在はテトロン製が主流）、

右手の3本の指に爪をつけて演奏を行ない、左手で音程を変えたり弦を押さえることなどを説明しました。各楽器による伝統音楽の演奏や両者による現代音楽の演奏を通じ、楽器の持てるポテンシャルを実証しました。

ワークショップに参加した同校の学生達は、独特の音色を持つ珍しい日本の伝統楽器に大いに興味を示し、イベントは活発な質疑応答で締めくくられました。

実施会場として本イベントを受け入れていただいたリスボン高等音楽院並びに参加いただいた同校の学生の皆様に感謝申し上げます。



(お知らせ)

(6) 2016年度日本政府国費留学生（日本語・日本文化研修留学生）の募集

日本政府は、2016年度国費留学生（日本語・日本文化研修留学生、ポルトガル人対象）を下記の通り募集しています。応募者の資格及び条件等詳細については、下記 URL をご覧下さい。

- ・申請書類提出期間：3月4日（金）まで（当館必着）
- ・お問い合わせ：cultural@lb.mofa.go.jp / 21 311 0560
- ・URL：追って当館サイトに掲載いたします。

(7) 広報文化班からのお知らせ

今後、当館主（共）催による日本関連イベント開催に当たり、大使館便りに加えてEメールによる招待状やイベント情報の送付を希望される方は、[こちら](#)までご連絡下さい。

4. 領事関係

(1) 在留届に関するお願い

近年、海外で生活する日本人が急増し、このため海外で事件や事故等思わぬ災害に巻き込まれるケースが増加しています。万一、在留邦人の皆様がこのような事態に遭われた場合には、日本国大使館や総領事館は「在留届」を基に皆様の所在地や緊急連絡先又は日本国内の連絡先等を確認して援護活動を行っています。

当館でも、皆様に提出いただいた在留届により連絡先の把握を行い、大使館からの海外危険情報や広報文化活動などの情報提供、緊急時の連絡網整備、安否確認に役立てているところです。

このため、ポルトガル国内での転居、日本への帰国、他国への転出等、在留届の届け出事項に変更が生じた後、引き続きこの大使館便りをご覧の方は、速やかにその旨を下記領事班あてにE-mailにてご連絡下さい。

また、皆様の友人・知人で「ポルトガルに居住しているが、まだ在留届を提出していない方」がおられましたら、届出を行うようご案内下さい。

(2) 当館領事業務へのご意見募集

当館では、領事サービスの向上を図るため、皆様からのご意見を募集しています。どのような些細な事柄でも結構ですので、ご意見・ご要望等があれば、お気軽に下記領事班あてにE-mailにてご連絡下さい。

在ポルトガル日本国大使館（領事班）

住所：Avenida da Liberdade 245-6 1269-033 Lisboa

TEL：21-311-0560 FAX：21-354-3975

E-mail：consular@lb.mofa.go.jp